

医療療養病棟における呼吸器感染制御活動についての一考察 ～チーム全体での気管吸引教育を行って～

共同発表者：○浅野カズミ、蛭名由美子、鈴木実枝、滝島恵津子、森松静、進藤晃
医療法人財団 利定会 大久野病院

【はじめに】

入院施設基準変遷の中、医療療養病棟における気管切開や人工呼吸患者の入院数が増加している。当院医療療養病棟においても気管切開患者の増加に伴い、医療介護関連肺炎（以下 NHCAP）が懸念され、気管吸引手順や気道管理の適正化が課題とされている。吸引操作や気道管理は口腔ケアの実施状況と並んで、肺炎や気管支炎の発症に大きな影響を及ぼす。しかし、当院の気管吸引手順は統一されておらず手順が曖昧であった。この度、当院において吸引手順の見直しと教育プログラムを確立し、呼吸器感染制御活動へ取り組んだ。その効果について検討を行ったので報告する。

【方法】

- 1) 「気管吸引マニュアル」を整備し、教育プログラムを確立し手順の統一を図る
- 2) 速乾性手指消毒薬の使用状況の推移を調査

【結果】

- 1) 気管吸引と気道管理のレクチャー実施後、「気管吸引マニュアル」に沿った筆記と実技の試験を行い病棟看護師、吸引に関わる ST、PT、OT 全員が合格し気管吸引に関する手順が統一された
- 2) 筆記試験の合格率は1回目 8%、2回目 68%、3回目 24%であった
- 3) 速乾性手指消毒剤の使用量は手順統一前より増加を認めた

【考察・まとめ】

人工気道を有する患者は適宜気管吸引が必要とされる状況であるが、気管吸引は侵襲的医療行為であり、その手技が曖昧なことでは患者の状態に影響を及ぼす。適正かつ安全に気道管理を行うために「気管吸引マニュアル」を整備し、手技に関わる全員でマニュアルの習熟度を試験にて確認した。気管吸引試験の結果から、マニュアルの整備だけでは手技を確実に習得できないことが確認された。また、吸引に関わる全員が、気管吸引手順を習得するまで確認を行うことが重要である。更に、速乾性手指消毒剤の使用量は増加を認めたことから、マニュアルに沿った吸引操作が実施されていると考えられる。今後も気管吸引教育を継続し、NHCAPを起こさない取り組みを続けていきたい。